

その綿密なること驚くの外はない。又火星の運行を日々観測して、順行逆行、留等の月日を記さるゝ等實にその學究的態度敬服々々。

又かつて彗星の軌道について論ぜられ、彗星は行く行く、恒星に捕へられては、離れ離れては、又捕へられ、宇宙を漂流するものと唱へられ、何日ぞやは神田理學士の著「彗星」を通讀されたこともある。

宇宙は有限か、無限かとの問題で大に論じたことがあるが、これを究めて置かねば、死んでも道を迷ふとてそれはそれは熱心なこと驚くの外はない。

昭和五年八月二十七日

水 野 千 里 記す

「宇宙が小さくなつた」といふ説について

去る九月七日の英文毎日と、翌八日の大阪毎日及び東京日日新聞は、米國シカゴ電報として、

『宇宙空間に光線を吸収する物質が見付かつたので、今までの宇宙の大きさはもつと小さく考へられなければならぬ』

と言つたやうなセンセーショナルな記事を載せた。ニウスの根元は九月上旬シカゴで開かれた米國天文學會第44回總會で、ヴァジニア大學天文臺のヴァン・デ・カンブ Van de Kamp 氏が發表した論文である。しかし、上記の三新聞中、最も正しい記事を載せたのは英文毎日であつて、他の二つは何れも數字の譯を誤り、コツケイな失敗をしてゐた。即ち宇宙の縮まりは

東京日日(九月八日)

大阪毎日(九月八日)

英文毎日(九月七日)

1,000,000,000,000,000哩

“千億哩の一千倍”

“hundreds of quadrillions”

換言せば

1,000,000,000,000,000哩 100,000,000,000×1000哩. 1,000,000,000,000,000×幾百哩

尤も詳しい事はヴァンデカンブ氏の論文を見てからでないと分らないが、とにかく、トラムプラー、ヴァンデカンブ氏等が一兩年前から斷片的に發表してゐる數字に照して見ると、ほゞ想像がつく。

いづれ、二三月の後、事の真相を「天界」誌上に記することゝする。